

TAKAHATA ISAO

A LEGEND IN JAPANESE ANIMATION

高畑勲展

2023.7.8(土) - 9.18(月祝)

MieMu

みえむ

三重県総合博物館

MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

観覧料 | 一般 1,600円(1,400円) 学生 1,000円(800円) 小中高生 500円(300円)

※()内は前売料金 ※未就学児は入場無料 ※前売券は4/15(土)~7/7(金)まで販売 ※20名以上の団体は前売料金
※障害者手帳等をお持ちの方とその付添の方1名様は観覧無料 ※基本展示(常設)も観覧可能
※前売券・当日券は、Boo-Woo、ローソンチケット(Lコード:42272)、セブンチケット(セブンコード:100-499)、イープラス、
チケットぴあ(Pコード:994-221)、アソビュー!、主なコンビニエンスストア、中日新聞販売店などでお求めいただけます。

日本のアニメーションに遺したものの



TAKAHATA ISAO

A LEGEND IN JAPANESE ANIMATION

高畑勲展

2023.7.8(土) - 9.18(月祝)

MieMu

みえむ

三重県総合博物館

MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

開館時間 | 9:00~17:00 (最終入場は16:30まで) 休館日 | 毎週月曜日(7/17、9/18は開館)、7/18(火)

お問合せ | 三重県総合博物館 Tel 059-228-2283 公式サイト | <https://www.ctv.co.jp/takahata-ten/>
主催 | 三重県総合博物館、中京テレビ放送、中日新聞社 後援 | 近畿日本鉄道 企画協力 | スタジオジブリ
協力 | (公財)徳間記念アニメーション文化財団 制作協力 | NHKプロモーション



※本展の会期や内容が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。
最新情報は公式ウェブサイトや公式SNSでご確認ください。
※会場の混雑状況によっては、入場を制限する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

@takahata_ten

日本のアニメーションに遺したものの

©2013 担当事務所: Studio Ghibli, NHDWTK



©ZUNIV [7/17] 2023の少女の心「シム」 公式ホームページ <http://www.ghibli.jp/>



「太陽の王子 ホルスの大冒険」は、
ぼくたちの青春の一時期の
すべてを注ぎ込んだともいえる
たいへんに思い出深い作品です。

「太陽の王子 ホルスの大冒険」(1968年)より ©東映

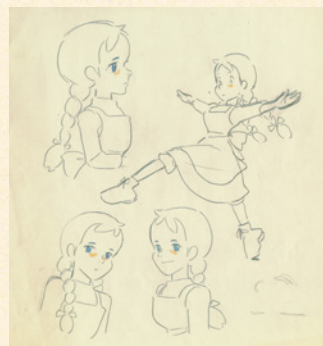
子どもの心を解放し、生き生きさせるような本格的なアニメシリーズを作るためには、
どうしなきゃいけないのかということを一生涯懸命考えた。



「アルプスの少女ハイジ」(1974年)より ©ZUIYO



「赤毛のアン」(1979年)より ©NIPPON ANIMATION CO.,LTD. "Anne of Green Gables"™AGGLA



「火垂るの墓」(1988年)より ©野坂昭如/新潮社,1988



「平成狸合戦ぽんぽこ」(1994年)より ©1994 畑事務所・Studio Ghibli・NH



日本人が日本のアニメーションを作る、とはどういうことか、
いつも考えていました。



「かぐや姫の物語」(2013年)より ©2013 畑事務所・Studio Ghibli・NDHDMTK

描いてない部分があるとか、ラフなタッチのままとか。
そしてそれが、とりもおさず、見る人の心に
記憶を探ろう、想像しようという気持ち呼び覚ますんだと思うんです。
「かぐや姫の物語」での線の途切れ・肥瘦、塗り残し、がたつきなどは、
そのために役立ったのではないのでしょうか。



「ホーホケキョとなりの山田くん」(1999年)より ©1999 いしいひさいち・畑事務所・Studio Ghibli・NHD



映画監督・高畑勲(1935~2018)は、現在の伊勢市に生まれ、幼い時期を津市で過ごしました。本展は、三重ゆかりの映画人である高畑にスポットをあて、絵を描かない監督がどのようにして歴史に残るアニメーションをつくったのか、他のクリエイターたちとの交流や共同制作の過程を通して明らかにします。

初の長編演出(監督)となった「太陽の王子 ホルスの大冒険」(1968年)で、悪魔と闘う人々の団結という困難な主題に挑戦した高畑は、その後つぎつぎにアニメーションにおける新しい表現を開拓していきました。70年代には、「アルプスの少女ハイジ」(1974年)、「赤毛のアン」(1979年)などのTV名作シリーズで、日常生活を丹念に描き出す手法を通して、冒険ファンタジーとは異なる豊かな人間ドラマの形を完成させます。

80年代以降舞台を日本に移して、「ジャリン子チエ」(1981年)、「火垂るの墓」(1988年)、「平成狸合戦ぽんぽこ」(1994年)など、日本の風土や庶民生活のリアリティーを表現するとともに、日本の戦中・戦後の歴史を再考するような作品を制作。遺作となった「かぐや姫の物語」(2013年)ではデジタル技術を駆使して手描きの線を生かした水彩画風の描法に挑み、従来のセル様式とは一線を画した表現上の革新を達成しました。

このように常に今日的なテーマを模索し、それにふさわしい新しい表現方法を徹底して追求した革新者・高畑の創造の軌跡は、戦後の日本のアニメーションの礎を築くとともに、他の制作者にも大きな影響を与えました。本展覧会では、絵を描かない高畑の「演出」というポイントに注目し、多数の未公開資料も紹介しながら、その多面的な作品世界の秘密に迫ります。

関連イベント ※場所・申込方法等、詳しくは公式サイトをご覧ください。

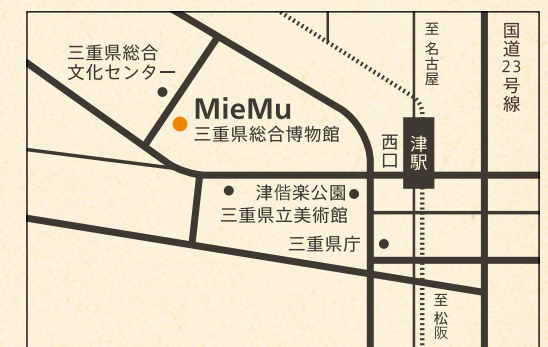
7/8(土) 11:00~ スタジオジブリ 展示プロデューサーによるギャラリートーク

7/23(日)・30(日) 各日10:00~12:00/13:30~15:30 ぬりえでパラパラまんがをつくろう!

8/18(金) 13:30~ 高畑勲監督作品上映会「平成狸合戦ぽんぽこ」

MieMu みえむ 三重県総合博物館
MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

三重県津市一身田上津部田3060 (三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp
web https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/



【アクセス】公共交通機関：津駅(近鉄名古屋線、JR 紀勢本線、伊勢鉄道) 西口下車、津駅西口から三重交通バス(「総合文化センター行き」「夢が丘団地行き」)約5分、「総合文化センター前」下車/徒歩：津駅西口から約25分/自動車：伊勢自動車道「津IC」から約10分、「芸濃IC」から約20分